

夢の本棚

発行所：松居直コレクション
プロジェクト
代 表：金戸 美紀子
事務局：石川県小松市
小馬出町10-3
空とこども絵本館
☎ 0761-23-0033
bookrin@city.komatsu.lg.jp

【活動方針】①絵本の楽しさを伝える〈親子読書の奨励〉②絵本の歴史を学び、進むべき方向を考える〈絵本文化の研究〉
③市が所有する知的財産として、次世代に正しく伝える〈絵本文化の継承〉

一枚の絵はがきから

◆戦後、ダムってというのは、日本の経済発展の象徴でしたからね。佐久間ダムがちょうどできる時です。「ダムのことを子どもにも知らせておくのはいいなあ」と思って、ダムの物語と絵の両方をちゃんと描ける人がいないかなあと思っておりました◆**たまたま内田路子**さんが「この絵、ちょっと見てちょうだい」と、私に展覧会か何かに出した絵はがきを渡されたんです。白黒の絵でした。モチーフは忘れたんですが、線がほんとにしっくりと生活感があつて語ってくるんです。この人は、生活というものを絵にちゃんとできる人だなあということを感じました◆**それで私は「加古里子」という人の家**

「**子どものとも**」を彩る作家と画家たち ⑫
くダムのことを子どもたちに伝えたい



日本の将来のためにも

へ飛んで行って会いました。加古さんは、その頃は昭和電工の研究所の所員でエンジニアだったんですね。東大の学生時代からだと思ふんですけど、川崎のセツルメントで、子どもたちに紙芝居を作っては語るといふことをやってらしたんです◆**集団生活をしてる、あるいは、お父さんが労働者としていろんな仕事をやらしている家庭の子どもの考え方や感じ方とか、どういふことに興味を持ってるか**ということにほんとに詳しい。工学博士ですから、非常によく分析の出来る人でした。

◆私が加古さんに「ダムの話を作っていただけませんか」と言ったら、「紙芝居はやってるけど絵本は作ったことがないから、できるかわからないけどやってみましょう」と。また「今の時代に、子どもたちにそういふことをちゃんと伝えられる絵本を作るってことは、子どもたちのためにも、日本の将来のためにも意味があることだ。自分にはよく共感できるんで」と。



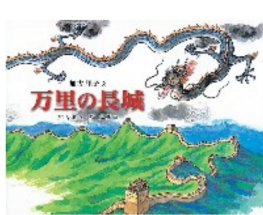
加古里子 作・画
34号/1959年1月号

◆こうして「**だむのおじさんたち**」を描いていただきました。現場で苦労して働いている人の中に、子どもたちのお父さんやお兄さんがいるはず。どんな気持ちを持っていてるか、自分の仕事の意味がわかってるか。それを絵本を通して子どもに知らせたいというのが、

加古さんの願いです。そういつた現場もちゃんと押さえて、ダムの作り方っていうのも徹底的に分かって、これをお作りになっていくわけですね◆**単に科学者や技術者ってことじゃなくて、ほんとに人間の生きていく姿ってものがどういふものなのか**ということを加古さんは分かって、こういうのを描くんですね。

◆この後で、加古さんが描いてくださったのは『**かわ**』という横長のものになるわけですが、今は『**万里の長城**』を描いてますよ◆**万里の長城**ってのは、ユーラシア大陸をずーっと繋いでるわけですからね。私はその案に賛成なんです。ユーラシア大陸で繋がってないのは、日本とイギリスです。この2つだけは島国です。世界史の中でユーラシア大陸は、本当にいろんな国に繋がっ

Q：セツルメントって？
宗 教 家 や 学 生 が、 労 働 者 街 や ス ラ ム に 定 住 し て、 住 民 と の 人 格 的 接 触 を 図 り な が ら、 医 療 ・ 教 育 ・ 保 育 ・ 授 産 な ど の 活 動 を 行 い、 地 域 の 福 祉 を は か る 社 会 事 業。 ま た、 そ の 施 設 や 団 体。(デ ジ タ ル 大 辞 泉)



加古里子 作・画/常 嘉 煌 画
2011年 / 福音館書店刊

構想30年・制作5年の大作
(つづく)